

答 辞

肌寒い風が吹きつつも、暖かな春の日差しが顔を出す季節となりました。これからの未来に對して、期待や不安が入り混じる中、こうして無事旅立ちの日を迎えることができました。本日は私たち卒業生のために、このように厳かで晴れやかな式典を挙行していただきましたことを、卒業生一同、心よりお礼申し上げます。来賓の皆様、保護者の皆様、私達の為^に足を運んでいただいたことに衷心よりお礼申し上げます。

先ほどは、校長先生、来賓の方々、在校生の皆さんから数々のお言葉をいただきました、ありがとうございます。力強い励ましの言葉に気持ちが高揚し、身の引き締まる思いです。

この信楽高校で過ごした三年間を振り返ると、本当に色々な日々が思い出されます。

一年生。満開の桜の元、それぞれの喜びを胸に、信楽高校の門をくぐった入学式。いよいよ始まる高校生活に、不安と期待に胸を躍らせ、先生方や新しいクラスメイトとの出会いが待ち遠しかったあの頃が、懐かしく思い出されます。最初は静かだった教室も、日が経つにつれて賑やかになり、放課後まで残って友達と話すことも多くなりました。

初めての行事となった体育大会では、先輩達の競技や団活動にかける、熱く真剣な姿に心を奪われ、その姿に憧れました。蒸し暑い教室やグラウンドで団アピールの振り付けを丁寧に教えてくださる先輩方の背中には、大きく優しさに溢れていました。

文化祭では、初めてクラスでの取り組みに四苦八苦しました。クラスの皆で助け合い、工夫を凝らして、何とか本番を成功させることができました。皆で協力して一つのものを作り出す難しさ、仲間と共にやり遂げた後の達成感を味わうことができました。

二年生。私達にも後輩ができ、部活動や学校行事には、より一層積極的に取り組みました。後輩を引っ張り、先輩との間に入ることの難しさを痛感すると同時に、先輩になったという自覚が芽生えました。

三泊四日で行った東京方面への修学旅行。見上げるほどのビル群や、大勢の人の波に圧倒されました。テレビや雑誌でしか見たことのない場所を実際に訪れ、政治、経済、芸能、文化の中心を肌で感じました。班に分かれての都内自主研修では、乗る電車を間違えたり、財布を落としたり、しまったりと様々なハプニングもありました。友達と自由に都内やディズニー・シーを散策し、ホテルの部屋では夜遅くまで語り明かしました。

多くの苦勞と喜びを知り、私達も先輩たちのように逞しくなりたいという思いを抱き、試行錯誤を続けた二年間でした。

三年生。いよいよ高校生活もあと一年。高校生活の集大成。毎日の学校生活や学校行事、進路決定など、最高学年としての立場と責任を日々実感しました。

一年生の時に見たあの先輩方の頼もしい姿を思い浮かべながら、後輩たちをまとめ、先生方と相談し、最後の体育大会に取り組みました。張り切りすぎて体調を崩してしまったり、上手いかないなイライラをぶつけてしまったりすることもありましたが、それぞれの団が力の限りを尽くし、忘れられない思い出を作ることができました。上手く教えられない私達に、黙ってついてきてくれた一、二年生の皆には、本当に感謝しています。文化祭では、これまでの経験やアイデアを総動員し、三年生ならではの

劇を作り上げることができました。模擬店の出店や有志発表など、最後の学校行事を心の底から楽しむことができたのは、心を通わす友人の存在があつたからです。

最後まで悩みに悩んだ進路決定。進路と向き合う中で、自分の人生を真剣に見つめることができました。この三年間で学んだことや感じたこと、経験したこと全てが、自分の進路を考える手助けをしてくれたような気がします。自分で出した結論に対して、偽ることなく、真摯に向き合っていきたいと思えます。

私たちが学校生活を通して、こうして成長することができたのは、先生方の存在があつたからです。先生方はいつも私たちを陰ながら見守り、私たちが困っているときや問題を抱えているときには、話を聞いたり、一緒に考えてくださったり、私達が自分の手で解決できるよう、アドバイスをくださいました。そのおかげで、私たちは悩みや問題と向き合い、自らの手で解決することができました。また、私達が間違つた方向に進みそうな時には、心を鬼にして叱ってくださいました。授業で分からなかつたところや何か失敗をしてくじけそうになつている時には、優しく指導してくださいました。そうして指導してくださるたびに、私たちは少しずつですが確実に成長していくことができました。三年生になり進路に悩んだとき、私たち一人一人の進路を気に掛けてくださり、朝早くから夜遅くまで進路相談をしてくださいました。あの時相談したこと、私たちがどれほど救われ、頑張ろうという気持ちになれたことか、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この学校に入学して、多くの先生方に出会い、大切なことを沢山教えていただきました。

さて、私たちは十八歳となり、自分なりの価値観や信念を持つようになりました。思春期という成長過程の中で、これまで家族にもどれほど迷惑をかけたことでしょうか。きっと誰もが親や家族とぶつかり、分かり合えない時があつたはずです。時には乱暴な言葉をぶつけてしまったことも、わがままを言ったこともありました。心配も迷惑もかけたこともありました。それでも決して忘れてはいけません。「私たちは家族なしに、ここまで大きくなれなかつた」ということです。いつも元気に送り出してくれ、いつも温かく迎えてくれました。食べ盛りの私たちに毎日ご飯を作ってくれ、土や絵の具にまみれた体操服はいつもきれいに洗ってくれました。どれだけケンカをしても、どれだけ言い合いになつても、いつも最後は、私達に寄り添い、支えてくれたのは、お父さん、お母さんでした。私たちはしだいに自立し、家族のもとを離れていきます。しかし、どれだけ大きくなつても、いつも暖かく見守ってくれていることは決して忘れません。お父さん、お母さん、私たちはこんなに大きくなりました。まだまだ、お父さん、お母さんのお世話にならないといけません。これから少しずつ、これまでの感謝の気持ちを返していけたらなと思います。

いよいよ、お別れの時が近づいてきました。最後になりましたが、校長先生を始め諸先生方、そしてお父さん、お母さん、本当にお世話になりました。この三年間で受けたたくさんの愛情を胸に、私たちは自ら選んだ六十八通りの人生を、それぞれの力で歩んでいきます。どうか暖かく見守ってください。そしてこれからも変わらぬご指導をお願いいたします。信楽高校の卒業生であることに誇りを持ち、胸を張って巣立っていきます。改めて心からの感謝の言葉を申し上げ、答辞とさせていただきます。

平成三十年三月一日

卒業生代表 小森 梓乃